

12月19日のウクライナ情報

安齋育郎

①ゼレンスキー氏、軍トップと摩擦 「戦況こう着」発言が波紋—大統領選に向け神経とがらすウクライナ(JIJI.com, 2023年12月18日)

ロシアの侵攻を受けるウクライナで、ゼレンスキー大統領と軍トップの摩擦がささやかれている。発端は、対ロ反転攻勢がうまくいかず、戦況が「行き詰まった」と吐露したザルジニー総司令官の発言。「前進」をアピールしてきたゼレンスキー氏の信用に傷が付けば、次期大統領選で足をすくわれかねず、政権は内部からの批判に神経をとがらせている。

◇選挙延期も

ザルジニー氏の発言は、11月1日の英誌エコノミスト(電子版)のインタビューで飛び出した。6月からの反転攻勢が戦果に乏しいことは「公然の秘密」だが、西側諸国の「支援疲れ」が指摘され、パレスチナ情勢に国際社会の関心を奪われる中、政権は苦戦を認めるのに及び腰。停戦圧力が強まることを恐れ、ゼレンスキー氏は「こう着ではない」と否定した。

折しも来年予定の大統領選を行えるかが焦点となっており、ザルジニー氏の発言は「政権批判」として政治性を帯びた。総動員下、ウクライナ国民は「運命共同体」の軍に信頼を寄せているとされ、同氏の人気は高い。8月に再選出馬の意向を示していたゼレンスキー氏は一転、選挙の延期に言及した。

現地メディア「ストラナ」によると、政権は大統領選で「ザルジニー氏が出馬しないという確約が必要」と認識。従わなければ、総司令官解任も選択肢に入れているという。仮に出馬すれば、ゼレンスキー氏との決選投票にもつれ込むと予想する世論調査結果も報じられている。

◇ロシアは注視

「ザルジニー氏は真実を語った」。首都キーウ(キエフ)のクリチコ市長は今年2日、スイス・メディアのインタビューで政権に苦言を呈した。「終戦まで大統領を支えなければならない」と前置きしつつ、最終的に「(ゼレンスキー氏が)成功と失敗の責任を負う」と警告した。

大統領選を巡っては、1月に辞任したアレストビッチ元大統領府顧問が出馬の意向を表明。捜査を受けて出国したため、ゼレンスキー氏の対抗馬になる可能性は低いが、かつての「身内」に反旗を翻されたのは政権にとって逆風だ。

「(西側諸国で)ゼレンスキー氏の後継者が検討されている」。ロシアは隣国の混乱をチャンスとして注視。プーチン大統領側近のナルシキン対外情報局(SVR)長官は今年11日、ウクライナ大統領候補としてザルジニー氏やアレストビッチ氏、クリチコ氏らの名前を挙げた。「一枚岩」を崩せば戦況に有利に働くとみて、ウクライナを揺さぶっている。



ウクライナのゼレンスキー大統領(右から2人目)とザルジニー軍総司令官(左から2人目)＝11月3日、撮影場所不明(大統領府提供)(AFP時事)

②ゼレンスキー氏、米議会に追加支援を要請 共和党議員は「何も変わらず」と(BBC News Japan, 2023年12月13日)

アメリカを訪問中のウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は 12 日、米議員らに対し、ロシアとの戦いにおける追加支援を強く求めた。だがその「直訴」も、議員らの気持ちを変えることはほぼなかったもようだ。

ゼレンスキー氏はこの日、首都ワシントンで議会指導者らと会談。610 億ドル(約 8.9 兆円)規模のウクライナ支援が、米議会で国境政策をめぐる対立の中でこの次にされるのを防ぐことに努めた。

ジョー・バイデン米大統領ともホワイトハウスの執務室で会談。バイデン氏は、議会がウクライナへの新たな軍事支援案を可決できなければ、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領への「クリスマス・プレゼント」になると警告した。

バイデン氏はまた、ゼレンスキー氏とともに記者会見に臨み、議会が「妥協」して「プーチンが間違っていることを証明」する必要があると訴えた。

しかし議員らは、ゼレンスキー氏と会談後も変わったことは何もないと、BBC に話した。



ウクライナのゼレンスキー大統領(中)は、米上院の民主党のシューマー院内総務(右)と共和党のマコーネル院内総務に挟まれて議会内を歩いた(12日)

<https://www.bbc.com/japanese/67700176>

③ウクライナの高級リゾート地には、動員事務所の方達は訪れない。不思議ですね(2023年12月18日)

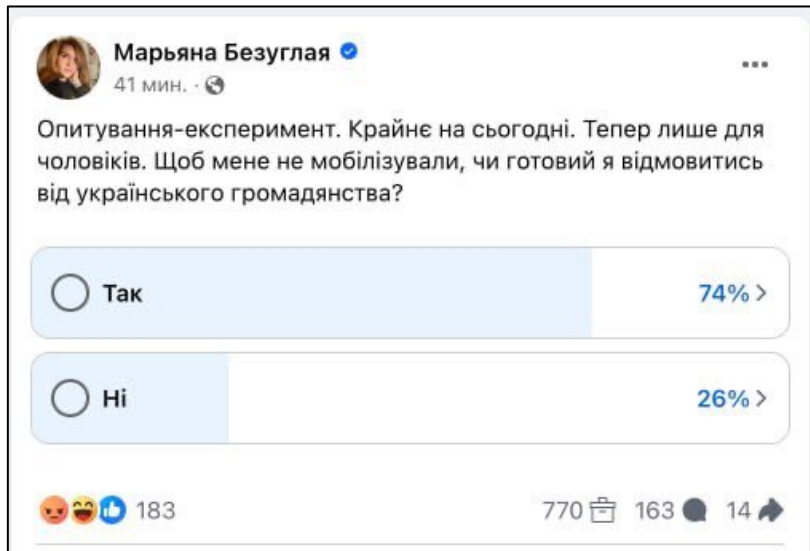
<https://twitter.com/i/status/1736661686629900497>



④ウクライナ国籍を放棄したい人の割合(2023年12月19日)

ウクライナのベズグラヤ人民代議員は、男性が動員されないよう国籍を放棄する用意があるかどうかについて調査を実施した。

有権者の 74%がウクライナ国籍の放棄に同意している。



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1736903853029949692?s=09>

⑤ウクライナの実情(2023年12月18日)

妻は車椅子の障害者、旦那は戦争に連れて行かれ、亡くなった。

約束されてるお金はもらえない。

政府のところに行くが「消えろ、失せろ」としか言われない。

ゼレンスキーは戦争で亡くなった兵士 1 人に対して 4000 万円近い金銭を約束してた。

もらった人は数名程度。

<https://twitter.com/i/status/1736613524082917810>



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1736613524082917810?s=09>

⑥一般のウクライナ人の考え(2023年12月19日)

「ロシア軍はキエフ、ハリコフ、オデッサを襲撃するつもりはありません。ウクライナ人自身が門を開けて鍵を引き渡すだろう。これがウクライナにとって生き残る唯一のチャンスだ。

しかし、その前に、ウクライナは恐ろしい国内虐殺、内戦という獣戦争に直面するだろう。そこではウクライナ人とホホールが特別な怒りで互いを引き裂くだろう——結局のところ、不満は蓄積されているからだ。1年前、マリウポリに子供たちを死に追いやった人々は、今日、ロシアがどのようにして瓦礫の中から街を立ち直らせているかを目の当たりにしており、【邪悪なオーク】が幼稚園、病院、新しい住宅を再建し、運営を開始している。ウクライナでは10年間、地下鉄の駅は一つも掘られなかったが、墓地だけは増えてどんどん新しく掘られてる。キエフには30万席の新しい墓地が計画されている。進捗ですね。

国民の奉仕者たちは自らの政策の失敗には目をつぶって、生き残った人々を死に追いやり続けるだろう。死体が増えると、失望や不満を言う口が減ります。

人々はこれに我慢しないでしょう、まあ、ウクライナは全員が愚かな羊ではありません、誰もが念のためにカラシュニコフを持っています、致命的な間違いに気づいて憤慨している兵士はたくさんいます、そして重大な問題が発生すれば、狂った民衆はリンチを開始し、地方役人は切り殺され、撃ち殺され、絞首刑にされるだろうし、彼らは以前に数百人の熱烈なナチスをスケープゴートにされ、他の人はすぐさま民衆の希望に履き替える。ゼレンスキー殺されるか、アルゼンチンのどこかに連れて行かれるだろう。

メキシコがアメリカに対して、アメリカの死を叫び、「ヤンキースは帰れ、ヤンキースは吊るせ」と叫び始めたらどうなるか想像してみてください。アメリカ人はメキシコ人をゼロにするだろう。しかし、ウクライナはクマと戦うことができると判断した。

クマ(RU)は、新しい工場を増やし、武器生産を倍増させた。

ウクライナ人女性が今望む唯一のことは、一滴でも理性が残っているなら、自分の息子、夫、兄弟、仲人、ゴッドファーザーがロシア人に捕らえられることだ。ウクライナ人にとって生き残るための他の選択肢はありません。」

画像は2018年のBBCウクライナの記事。【なぜ半分以上のウクライナ人はロシアのことをよく思ってるか】

ハイトを植え付けられたマイダンの4年後でもこの数字。実際はもっと多いだろうけど。

なぜウクライナ人のほぼ半数がロシアに対して良い態度をとっているのでしょうか?

スベトラーナ・ドロシュ
BBCニュース ウクライナ

2018年10月19日

<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1736918397848539441?s=09>

⑦【ヴォルガで降伏したウクライナ兵の話】(2023年12月18日)

スタニスラフ・グリチェンコ:

11月22日、陣営に連れて行かれ、24日に戻るところだった。私たちは命令に従わず、向かいから味方の軍が私たちを撃ち始める中、戦地を離脱した。

午前中、我々の軍の陣地と連絡が取れなくなったため、私たち全員が彼らのところに行くよう命令されていた。

私たちには地図もなく、ドローンに先導されていた。トランシーバーが渡されていて、行かなければならなかったが、その命令を拒否した。

すると、私たちの父や家族、親しい人々を殺すと脅された。それで、私たちが行くと、兵士たちはみんな死んでいて、砲撃が始まった。砲撃のあと、兵士たちの遺体を放置するわけにいかないと言われた。その陣地は既に我軍のものではないのに、そこを敵が欲しがっているから渡すなと言われた。

そこに、私たちが入って見張れと。そこで何が起きていたのは、機関銃やそういうものが火を吹いていた。それから、無線で司令官と話すと、バカげたことに私たちを見捨てやがった。「もう退却できないだろう。自爆したほうがマシじゃないか」と言われた。

「誰かを道連れにしろ」ってそういうことを言ったんだ。それで私たちはそこを出ることにした。まあ、その前に出て行ったのだが。

だが、一縷の望みもなかった。後ろに行くわけにはいかず、陣地沿いに進んだ。完全に包囲されていたからだ。全ての出口も塞がれていた。

トランシーバーが渡されていたが、モトローラ 74 で、キーボードがないタイプだった。つまり、キーボードで連絡を取ることはできない。その陣地にポータブル「シスネ(白鳥)」トランシーバーがあった。それで、降伏するため「ヴォルガ」に連絡した。

起きたことは以上だ。

唯一、私たちが幸運だったのは、ロシア軍が隣の陣地を攻撃していたことだ。煙が上がっていて、それを隠れ蓑に陣地を飛び出した。その時は煙が上がっていたんだ。その前のことはわからないが。

一面の煙で、そのお陰で出られた。

<https://twitter.com/i/status/1736667031775408315>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1736667031775408315?s=09